

中学校

平成 17 年 度

教育研究員研究報告書

保 健 体 育

東京都教職員研修センター

目 次

I	研究の概要について	2
1	研究の主題設定の理由	2
2	研究構想図	3
3	研究の方法・内容	4
4	課題解決学習の具体的な支援の内容	4
II	研究内容について	5
1	アンケート調査	5
2	実証授業	10
(1)	保健分野	10
①	単元の指導計画例	10
②	学習指導案例	12
③	学習資料	14
④	実証授業のまとめと考察	15
(2)	体育分野	16
①	単元の指導計画例	16
②	学習指導案例	18
③	学習資料	20
④	実証授業のまとめと考察	23
III	研究の成果と今後の課題	24
1	研究の成果	24
2	今後の課題	24

研 究 主 題

課題解決学習における、個に応じた支援の工夫

I 研究の概要について

1 研究の主題設定の理由

保健体育科の目標は、「心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる」とある。

これは、教科の究極の目標でもある生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現するための資質や能力、健康で安全な生活を営む実践力及びたくましい心身を育てることによって、現在及び将来の生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにするということを目指すものである。

昨年度の研究成果及び課題を受け、さらに具体的な「個に応じた支援」の充実を図ることにより、生徒が運動の特性にふれる楽しさや、喜びを味わうことができるようにするとともに、心身の健康の保持増進にかかわる資質や能力の基礎を高めていくことが重要な課題であると考えた。

そこで本研究では、課題解決学習において、個に応じた学び方の支援の一層の充実を図ることで、生徒自らが個々に応じた学習計画を立て、工夫をしながら主体的に課題を解決していく学び方を身に付けさせることを目的とした。

さらには、主体的に課題解決学習を進めることで、達成感や充実感が高まるとともに、学ぶ楽しさや喜びを一層味わうことができるものと考えた。

教師は、すべての生徒の学習状況を的確に把握し、その状況に応じた指導計画を立て、課題解決学習の取り組みや発展の支援に努めなければならない。そのため、生徒一人一人の習熟の程度に応じた学習資料の作成など、個別の支援を繰り返すことで、生徒が自らの学び方を身に付けることができると考えた。

そして、このような学習の積み重ねによって、生徒の資質・能力がさらに高まり、学習したものが生活の中に生かされながら、人間として充実したスポーツライフを送ることができると考え、主題設定の理由とした。

2 研究構想図

研究主題
課題解決学習における、個に応じた支援の工夫

●研究のねらい 本研究では、生徒が仲間と協力しながら自らの課題を発見し、その追究や解決していく学習における個に応じたさまざまな支援を通して、生徒一人一人に学び方を身に付けさせる。



●研究の仮説 課題解決学習において学習カードや学習資料等を工夫し、生徒個々への学び方を支援することで、学ぶ楽しさや喜びを一層味わわせるとともに、学習を発展させながら自らの学び方を身に付けることができる。



- 目指す生徒像**
- ① 自己の学習状況を客観的に把握することができる生徒
 - ② 自己の能力に応じた課題を設定し、主体的に学ぶ生徒
 - ③ 意欲や関心をもち、創意工夫しながら道筋を立てて学ぶ生徒
 - ④ 互いに学び合い、学習を発展させることができる生徒

教師、生徒相互、資料による支援

● PLAN (課題発見・学習計画作成)
課題の発見への支援

- ・課題を把握するための学習カード
- ・次の課題発見へのポイントが理解できるように導く資料

● DO (学習計画の実施)
学習活動への支援

- ・学習計画立案、学習の見通しがもてる資料
- ・学習環境の整備



生徒の課題解決学習

● ACTION (改善・修正)
学習の進め方の支援

- ・個に応じた学習指導計画の作成
- ・学習の進め方を理解させる資料

● CHECK (自己評価・相互評価)
自己評価活動への支援

- ・学習の振り返りや学習の修正を図るための学習カード
- ・自己に適した学び方を示す資料



個に応じた学び方の習得へ

3 研究の方法・内容

- (1) 保健分野と体育分野において、課題解決学習を進めるための指導および支援の工夫について研究する。
 - ① 保健分野では傷害の防止、体育分野では器械運動を取り上げる。
 - ② 生徒の習熟の程度や課題に応じた学習カード、学習資料を作成する。
 - ③ 生徒が意欲的に学習できるよう、学習の環境等を整える。
- (2) 生徒の実態を把握するために、意識調査を実施する。

保健分野と体育分野において、特に授業で身に付けたいことや、生活の中で生かしたいこと等について調査し、分析する。
- (3) 個に応じた課題解決学習の支援を工夫した実証授業を実施する。
 - ① 個に応じた支援を視点とした、学習指導計画を作成する。
 - ② 工夫した学習カードや学習資料等を活用して、生徒への個に応じた支援を実施する。
- (4) 実証授業の結果から、研究全体を考察し、研究の成果と今後の課題を明らかにする。

4 課題解決学習の具体的な支援の内容

- (1) 学習の進め方への支援
 - ① 学習指導計画の工夫【学習の状況により細かく対応した学習指導計画】
 - ② 学習の進め方を理解させるための工夫【学ぶ道筋を示した学習カード】
- (2) 課題の発見への支援
 - ① 課題を把握するための工夫【学び方のヒントや具体的な点検項目を示した学習資料】
 - ② 自己の状況を把握し、次の課題を発見するための工夫【技の一連の流れを分かりやすくした学習資料】
- (3) 学習活動への支援
 - ① 学習計画の立案の工夫【学習計画の視点を示した学習カード】
 - ② 学習の見通しや学習の到達点を把握するための工夫【技能の実現状況を具体的に示した学習資料】
 - ③ 生徒が意欲的、主体的に学習できる学習環境等への工夫
 - ア 主体的な学習が計画的に行えるように、学習環境を工夫する。
【調べ学習ができる図書室等の整備】
 - イ 効果的な学習の支援が行えるよう、指導体制を工夫する。
【保健体育科教諭、司書教諭等とのTTによる連携】
- (4) 自己評価活動への支援
 - ① 学習の振り返りや学習の修正を図るための工夫【自己評価・相互評価から振り返りができる学習カード】
 - ② 自己に適した学習を把握するための工夫【評価活動から次の学習を考えるための学習資料】

Ⅱ 研究内容について

1 アンケート調査

(1) 調査の目的

研究主題である「課題解決学習における個に応じた支援の工夫」を進めるにあたって、生徒が現在、保健分野及び体育分野の授業でどのような学習内容を、どのように学びたいと思っているかアンケート調査を行い、生徒が感じている実態と課題を把握し、研究に生かすことを目的とした。

(2) 調査対象

アンケート調査の対象については、平成17年度研究員所属中学校12校の第1学年～第3学年、計1,053人に行った。

(3) 調査時期

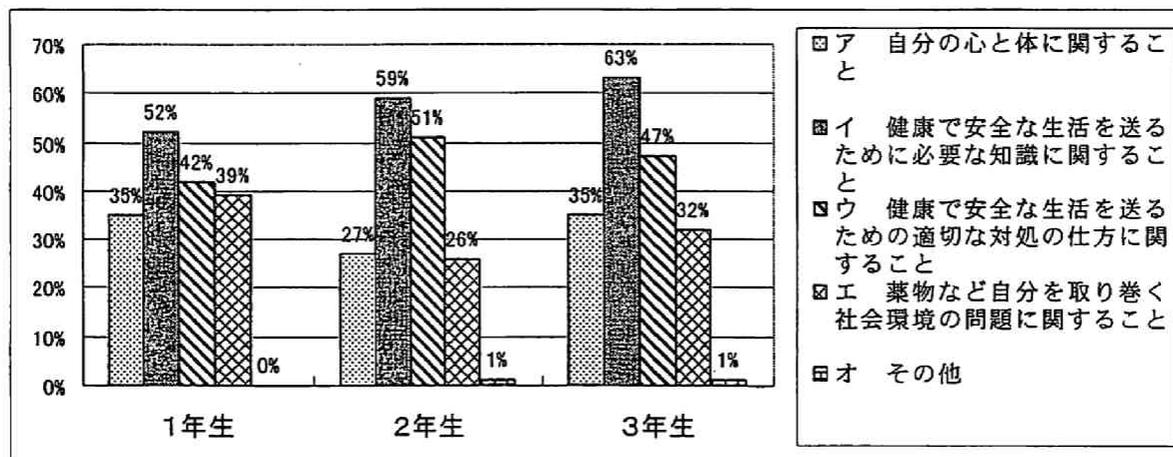
平成17年7月中旬

(4) 調査結果と分析

各校からの調査結果を集計するとともに、その傾向を分析した。

【保健分野】

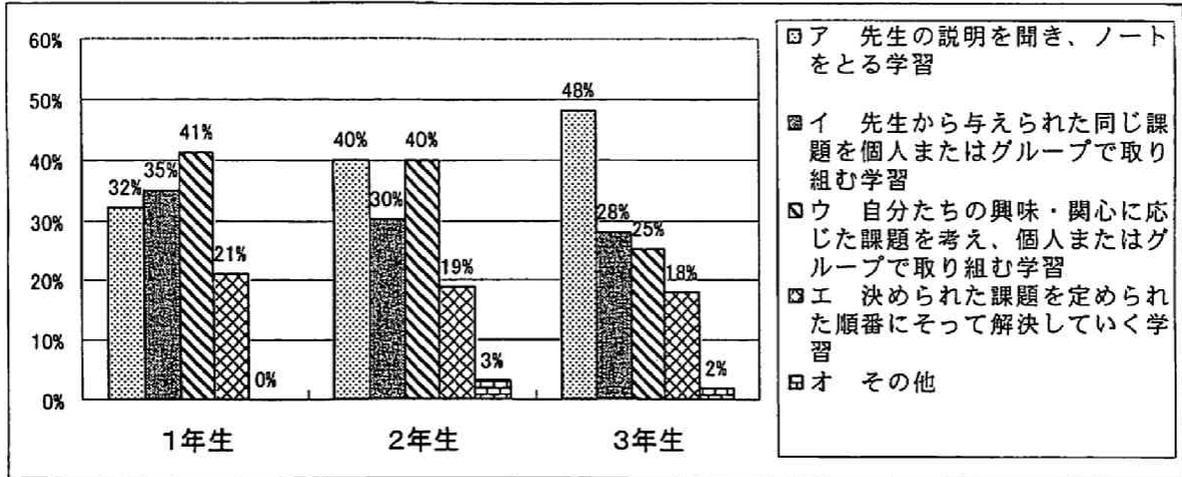
① 保健の授業で、どのようなことを学びたいか。（複数回答）



[分析]

- ・どの学年も、イ「健康で安全な生活を送るために必要な知識に関する事」と回答した生徒が最も多かった。
- ・次に回答が多かったのが、ウ「健康で安全な生活を送るための適切な対処の仕方に関する事」であった。特に2年生の回答が多く、関心が高いという傾向がでた。

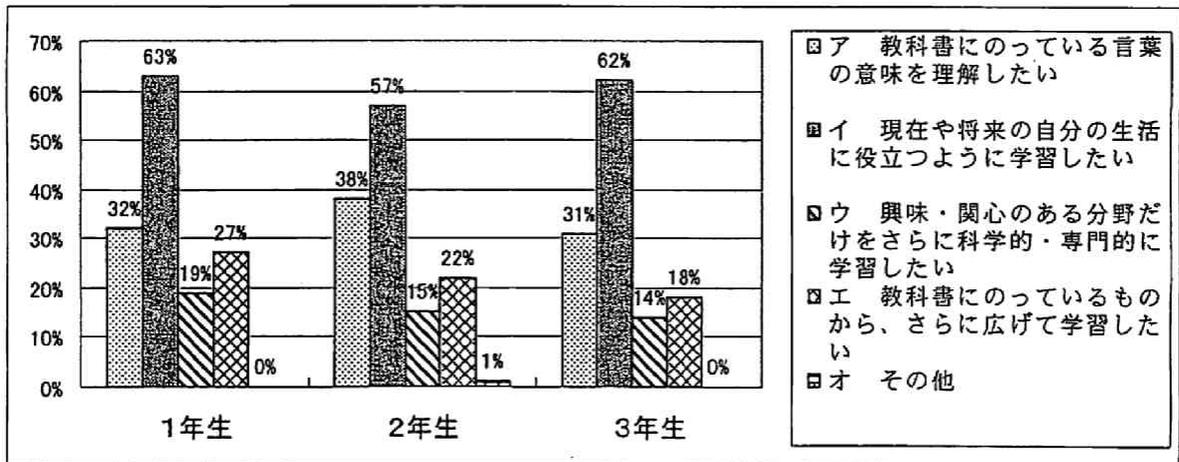
② 保健の授業を、どのような学習形態で学びたいか。(複数回答)



[分析]

- ・学年が上がるにつれて、ア「先生の説明を聞き、ノートをとる学習」と回答する生徒が増える傾向にあった。3年生では、特に多かった。
- ・1、2年生においては、イ「先生から与えられた同じ課題を個人またはグループで取り組む学習」より、ウ「自分たちの興味・関心に応じた課題を考え、個人またはグループで取り組む学習」の方を求めているという傾向がでた。

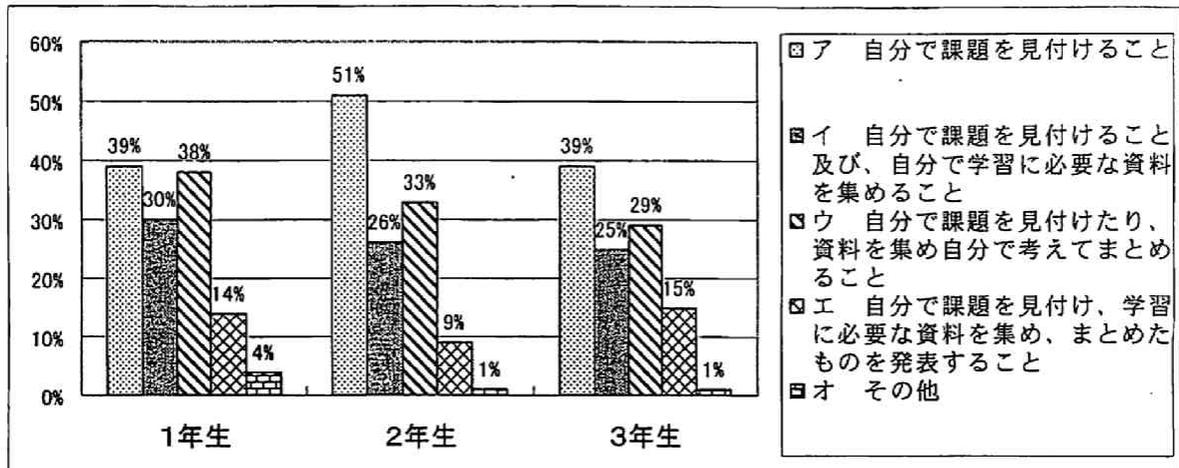
③ 保健の授業で、どの程度の内容まで学びたいか。(複数回答)



[分析]

- ・どの学年も、イ「現在や将来の自分の生活に役立つように学習したい」と回答する生徒が多かった。また、約3人に1人が、ア「教科書にのっている言葉の意味を理解したい」と回答し、保健の知識を求めていることが分かった。
- ・学年が上がるにつれ、エ「教科書にのっているものから、さらに広げて学習したい」と回答する生徒が、減少していく傾向がでた。

④ 保健の授業を進める上で、自分でできると思うことはどれか。(複数回答)

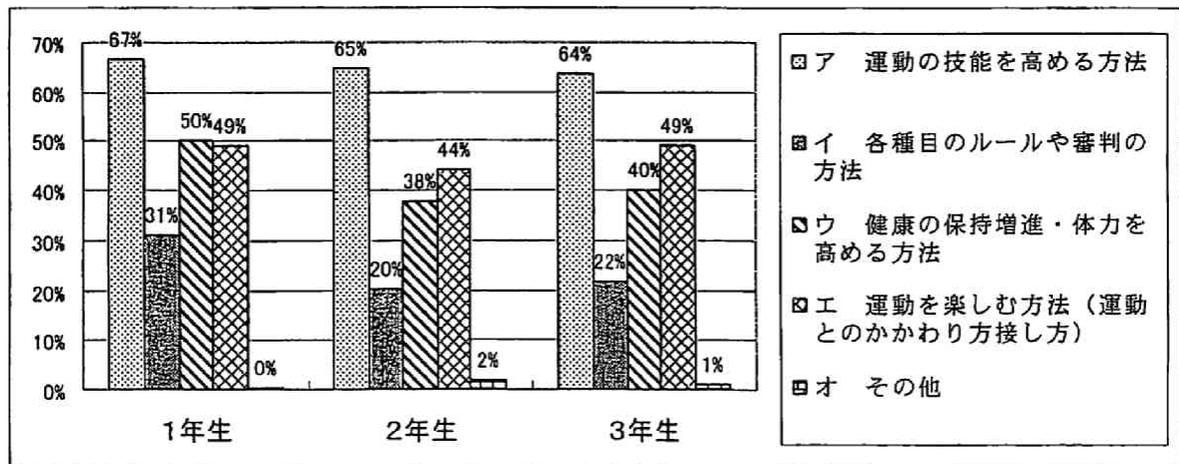


[分析]

- ・どの学年も、ア「自分で課題を見付けること」と回答した生徒が最も多かった。また、次に回答が多かったのが、ウ「自分で課題を見付けたり、資料を集め自分で考えてまとめること」であった。
- ・エ「自分で課題を見付け、学習に必要な資料を集め、まとめたものを発表すること」と回答した生徒は、どの学年でも最も少ないという傾向がでた。

【体育分野】

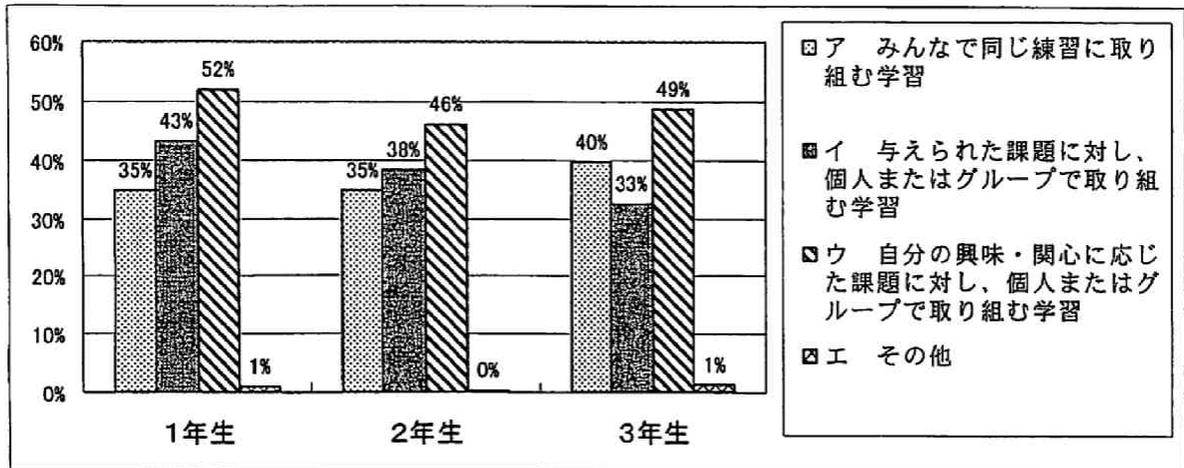
① 体育の授業で、どのようなことを学びたいか。(複数回答)



[分析]

- ・ア「運動の技能を高める方法」が、どの学年も多く、次に、エ「運動を楽しむ方法(運動とのかかわり方接し方)」、ウ「健康の保持増進・体力を高める方法」が多かった。
- ・約半数の生徒が、エ「運動を楽しむ方法(運動とのかかわり方接し方)」を求めていることが分かった。

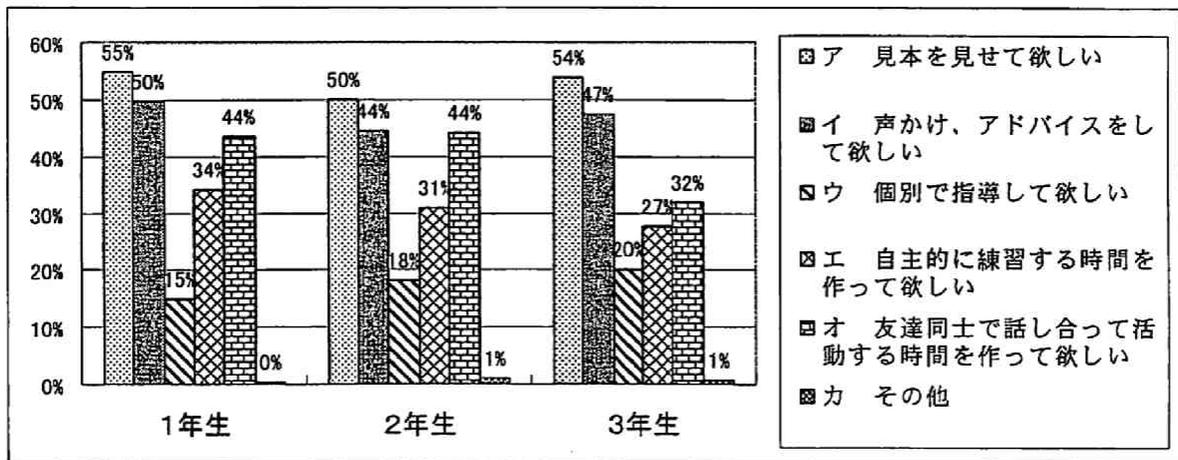
② 体育の授業を、どのような学習形態で学びたいか。(複数回答)



[分析]

- ・どの学年も、ウ「自分の興味・関心に応じた課題に対し、個人またはグループで取り組む学習」と回答した生徒が最も多かった。
- ・1、2年生は、次にイ「与えられた課題に対し、個人またはグループで取り組む学習」が多かった。3年生は、ア「みんなで同じ練習に取り組む学習」が多く、1、2年生と3年生とは逆の傾向がでた。

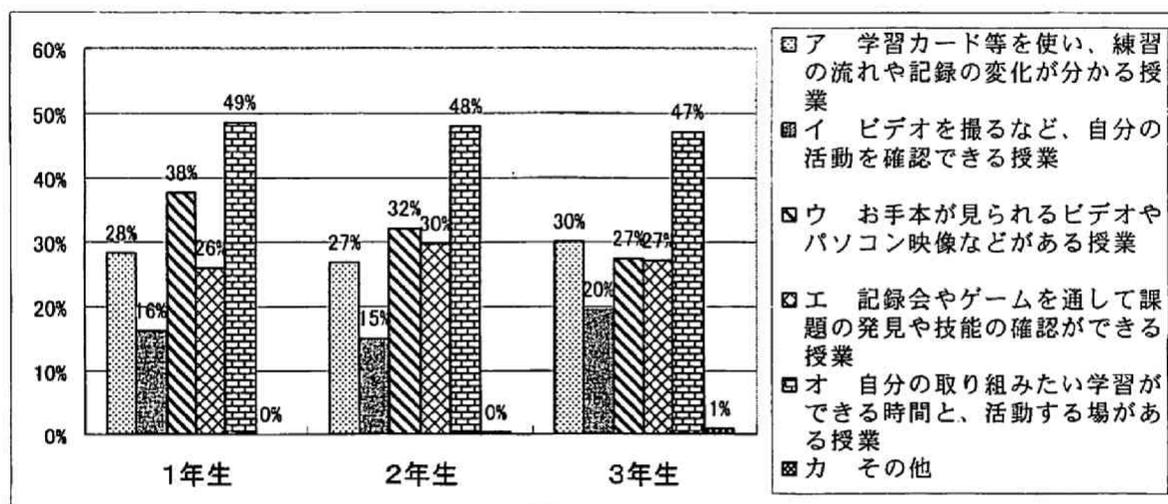
③ 授業の中で先生に、どのように手助け(アドバイス)をして欲しいか。(複数回答)



[分析]

- ・どの学年も、ア「見本を見せて欲しい」が多く、次に、イ「声かけ、アドバイスをしたい」の回答が多かった。
- ・3年生では、オ「友達同士で話し合って活動する時間を作って欲しい」と回答した生徒が1、2年生に比べ少ない傾向がでた。

④ 課題を見付け、技能を向上させるためにどんな工夫があればよいと思うか。(複数回答)



[分析]

・オ「自分の取り組みたい学習ができる時間と、活動する場がある授業」が各学年ともに回答が多かった。次に1、2年生は、ウ「お手本が見られるビデオやパソコン映像などがある授業」の順で多く回答を得ているが、3年生は、ア「学習カード等を使い、練習の流れや記録の変化が分かる授業」が2番目となった。

(5) 考察

保健分野のアンケートの結果から、生徒が求める「保健の授業」とは、現在や将来の自分に役立つよう、健康で安全な生活を送るために必要な知識を学習したいと思っていることが分かった。また、その学習方法としては、一斉授業だけではなく、興味・関心のある課題を個人またはグループで学習することを求めていることが分かった。

体育分野のアンケートの結果から、生徒が求める「体育の授業」とは、興味・関心のある課題を個人またはグループで、運動技能の向上と運動の楽しみ方を中心に学ぶことを通して、体力の向上や健康な身体づくりに生かせる授業であることが分かった。また、教師に対しては、見本や声かけ、課題に取り組むための時間確保、学習カード等の利用などを求めていることが分かった。

このことから、生徒の興味・関心のある学習内容を選択させ、個人またはグループで主体的に学習に取り組める学習環境を整えることが必要であることが分かった。さらに、課題解決学習に取り組みやすいように、個に応じた課題の設定から学習の進め方・まとめ方までの流れを明示し、生徒自らが進んで学習に取り組めるような支援を求めていることが分かった。

2 実証授業

(1) 保健分野 単元計画例 (第2学年対象 4時間扱い)

○単元名 「傷害の防止 (自然災害における傷害の防止)」

○単元のねらい

- ・学んだ知識の中から、興味・関心に応じた課題を選択し、学習の仕方を工夫して課題解決を図り、自然災害における傷害の防止について意欲的に学習できる。
- ・自己評価・相互評価を通して活動を振り返り、自己の学習を修正・発展させることができる。
- ・身に付けた知識を自己の生活に当てはめて考えたり、実践したりすることができる。

○「おおむね満足できる状況」の評価規準 (観は行動観察・学は学習カード・ベはペーパーテスト)

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
①自然災害における傷害の防止について、自分の日常生活を振り返りながら課題を発見しようとしている。(観)	①自分の経験や地域の生活を振り返っている。(観・学)	①自然災害による傷害の発生要因や防止対策について理解し、まとめることができる。(学・ベ)
②集めた資料や仲間の意見を参考に、課題について調べている。(観・学)	②学習したことを普通の生活に当てはめることができる。(観・ベ)	②自然災害から自分の安全を守ることの重要性を理解している。(学・ベ)
③自然災害における傷害の防止について、自分の意見を発表しようとする。(観・学)	③学習課題の設定や学習方法・学習計画について振り返り、修正したり、新たな課題を発見したりしている。(学)	③学習方法や自己評価・相互評価の方法について理解している。(学)

① 単元の指導計画例

時	学習内容・学習活動	課題解決学習への指導・支援	個に応じた具体的な支援 (学習につまずいている等)	評価
1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">知識の習得</div> <ul style="list-style-type: none"> ・自然災害について一斉に学習する。 ・各自の地震体験について振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書をもとに説明し学習カードに記入させる。 ・自分の地震体験や仲間の体験を聞き、自分の安全を守ることの重要性を理解させ、学習への興味・関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードに記入できたか確認するとともに、資料等を示し、説明する。 ・生徒が興味を抱くような発問をし、今後の学習への興味・関心が高まるよう促す。また、仲間の意見も参考にさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害の危険性が理解できたか。 ・自然災害への興味・関心を高めることができたか。
学習1	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の学習の進め方について確認する。 ・興味・関心のある内容、さらに調べてみたい内容から各自の課題を探る。 ・自己評価・相互評価をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードを使用して学習の進め方を理解させる。 ・学習資料(地震時の心得)を配布し課題発見の手だてとする。 ・学習資料等の考え方のヒントを示し、時間を十分に与え考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードの使い方が理解できない生徒に例を示し、個別に説明する。 ・課題を見付けられない生徒におたすけカード1を配布し課題設定の参考にするよう助言する。 ・学習カードから学習内容をもう一度振り返らせ、適切な課題が設定できるよう励ます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心に応じた課題を探ることができたか。また、課題解決のための学習計画を立て、学習の見通しをもつことができたか。

<p>② ・ 3</p> <p>学習Ⅱ</p>	<p>課題の解決</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題設定及び学習計画に基づいて、課題を追究する。 ・調べたことのまとめをする。 ・発表準備をする。 ・自己評価・相互評価をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間同士で話し合ったり調べるための時間を十分に確保する。 ・学習環境を整える。(コンピュータ室や図書室の利用及び、資料の準備) ・校内安全点検から新たな課題を見付ける。 ・課題追究に改善が必要な生徒には、学習計画を修正するよう助言する。 ・互いに資料・情報を交換するよう助言する。 ・生徒の校内点検実施に際し司書教諭などに支援・協力を要請する。 ・良い例などを紹介する。 ・原稿の書き方や発表の方法を工夫するよう助言する。 ・発表原稿を学習カードに記入させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おたすけカード2をもとに調べ学習の考え方を個別に支援する。また、校内の安全点検場所を選択させ、調べながら、学習カードに整理させる。 ・校内を巡回し気付いてほしいポイントについて助言する。 ・学習資料(地震時の10ポイント)を配布し地震時の行動の仕方についてまとめ、発表につなげるよう助言する。 ・資料の整理、学習内容のまとめ方を個別に助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決学習に互いに協力し、意欲的に取り組んでいるか。 ・活動が計画的に進められているか。 ・課題解決学習に必要な資料を適切に活用しているか。 ・発表に向け、自分なりの構想がもっているか。
<p>4</p> <p>まとめ</p>	<p>発表・まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べた内容をグループ内で発表する。 ・自己評価・相互評価をする。 ・自然災害における傷害の防止についてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表方法を選択させる。(パソコン、OHP や掲示物によるプレゼンテーション) ・学習カードに良かった点改善点、参考になった点を記入させ、自己の活動を振り返らせる。 ・自然災害への防止策を学習カードにまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・機器の使用方法、掲示の工夫などグループごとに助言する。 ・同じ発表方法同士、協力するよう働きかける。 ・発表を振り返らせ整理させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害への備えやその後の対応について理解し、新たな課題を見付けることができたか。 ・自然災害時における傷害への予防及びその対応を理解できたか。

②学習指導案例（4時間扱いの2時間）

〔本時のねらい〕

- ・学習内容に応じた課題を設定し、調べ学習を進めることができる。
- ・課題解決学習に意欲的に取り組み、必要な資料を準備し適切に活用することができる。
- ・自己評価・相互評価をもとに、自然災害（地震）についての学習を振り返り、自然災害による傷害の防止について理解する。

時間	学習内容・学習活動	教師の支援・評価	
		課題解決学習への支援	個に応じた具体的な支援（☞学習がうまくできている者 ➡つまずいている者）
はじめ 5分	<p>1 学習内容の確認</p> <p>・自然災害について、学習した内容を振り返り、本時の学習の流れや内容を確認する。</p>	<p>学習計画への支援</p> <p>・自然災害について学習カードから振り返る。 ・掲示物により学習の流れや課題を明確にする。 ・学習計画の立て方や配慮点について示す。</p>	<p>理解でき、学習カードにすべて記入できている。 ➡ 学習カードのチェック1☆にチェックし次の課題に進む。</p> <p>☞ 学習カードの内容が理解できたか。 ➡ 学習カードに記入できたが学習の内容や課題が理解できない。 ➡ 仲間の意見を参考にしながら学習カードの内容を再確認し、学習の課題や内容を気付かせる。</p> <p>➡ 学習カードに記入できず振り返りができない。 ➡ 学習資料や掲示物を活用し、具体例を挙げながら説明する。</p>
なか	<p>2 調べ学習</p> <p>(1) 課題設定</p> <p>・調べてみたい課題を設定し、調べる場所と方法を選択する。</p>	<p>課題設定への支援</p> <p>・課題の設定が適切であるか助言する。 ・調べ方を具体的に示し、各自の活動場所や方法を明確にする。</p>	<p>☞ 課題が設定でき、調べ方や場所も決定した。 ➡ 学習カードのチェック2☆にチェックし次の課題に進む。</p> <p>➡ 調べてみたい課題が設定できているか。 ➡ 課題が設定できたが、調べ方がわからない。 ➡ 参考となる資料を提示したり資料の整理の仕方、インターネット関係サイトについて助言する。</p> <p>➡ 調べてみたい課題が設定できない。 ➡ 「おたすけカード2」を提示し学校内の安全点検の場所を選択させる。『学校内の防災チェックリスト』を活用させ、調べたい場所を決める。</p> <p>➡ 評価 ・互いに協力し、意欲的に取り組んでいるか。 ・学習が計画的に進められているか。</p> <p>➡ 学習資料（地震時の10ポイント）を提示し記入方法を説明する。具体的な例を示し、調べ学習の考え方を支援する。</p>

40分

(2) 課題追究

・資料や情報を収集し各自の課題に合わせた学習を進める。

課題追究への支援

- ・校内を巡回し気付いてほしいポイントを助言する。
- ・図書室・インターネットなどを利用できる準備をする。
- ・参考資料を準備する。
- ・互いに資料・情報を交換できるようにはたらきかける。

課題解決学習を進めることができたか。

図書室活用

調べたい課題についての参考図書を、選びやすいような環境をつくる。司書教諭による支援を依頼する。

インターネット活用

効率的な調べ方や良い例を示し、仲間からのアドバイスをもらうよう助言する。あらかじめ災害関係のサイトを紹介する。

参考資料活用

調べたい課題についての情報を提供する。関係機関より資料を多く収集し用意しておく。

学習カード活用

「おたすけカード2」により校内を安全点検し、気付いたことを発展させるよう助言する。実施に際し、他教師に支援・協力を依頼する。

評価

- ・必要な資料を各自準備し、適切に活用しているか。

学習資料に地震の10ポイントを記入し、さらに知りたいことを調べるよう助言する。学習資料(地震時の心得)をヒントに記入させる。

(3) 学習のまとめ

・各自が調べた課題についてまとめる。

学習のまとめへの支援

- ・項目ごとに整理しながら、まとめるよう助言する。
- ・生徒相互に資料や情報を交換するよう促す。

学習カードに調べた結果をまとめることができたか。

学習した内容をまとめることができた。

学習カードのチェック3・4☆にチェックし、STEP3に進む。

資料はあるが、まとめることができない。

一緒に資料を見ながら課題を確認し、まとめ方の助言をする。

資料が見つけれられず、まとめられない。

課題に合わせた資料を提示したり、別の視点から見方を変えて調べるように助言する。

学習資料(地震時の10ポイント)を提示し地震時の行動についてまとめ、発表につなげる。

ま 3 **本時のまとめ**
と ・今日の授業を振り返り、学習カードにまとめる。
5 ・次回課題への確認。
分

振り返りへの支援

- ・学習カードのSTEP2からこれまでの学習を振り返るよう支援する。

今日の学習を振り返ることができたか。

学習カードに自己評価・相互評価を記入できた。

次回への課題の確認をする。

評価を記入できず、学習の振り返りができない。

一緒に評価項目を読んだり、今日の学習の内容を振り返りながら援助する。

[本時の評価]

- ・興味・関心に応じた課題設定ができ、課題解決のための計画的な調べ学習を進めることができたか。
- ・課題解決学習に意欲的に取り組み、必要な資料を準備し適切に活用することができたか。
- ・自己のまとめや相互評価から、本時の学習を振り返り、自然災害による傷害の防止について理解することができたか。

③学習資料

学習カード

2年組 番氏名

学習の道筋を示し、自己の学習をまとめていくカードとした

STEP 1 自己評価 A B C

STEP 2 自己評価 A B C

授業のまとめ

自然災害とは？

7月23日 東京 震度5の地震 そのとき、あなたはどこにいたか？
どのような行動をとったか？

地震がおきた まず何をしますか？

地震にともなって起こる災害

防災の3大鉄則

チェックをして次に進む

被害を最小限にとどめるためにどうすべきか？
防災の3大鉄則をもとに考えてみよう。
また、日頃から何をしておくべきか？考えて発表しよう。

チェック 1 ☆

STEP 1 であまりよく理解できなかったこと
調べてみたい課題が見つからない

おたすけカード1 使用
おたすけカード2 使用

調べてみたい課題 ()

調べる場所 教室 図書室 パソコン室 その他 ()

調べる方法 ()

チェック 3 ☆

調べてみたい課題 ()

調べる場所 教室 図書室 パソコン室 その他 ()

調べる方法 ()

チェック 2 ☆

調べた結果わかったこと

学習計画・方法の修正点 ある ・ ない

具体的な修正点 ()

参考資料名

チェック 4 ☆

おたすけカード1：学びのヒント

おたすけカード1

調べてみたい課題が見つからない生徒に配布し、ヒントを探す手だてとした。

「おたすけカード」は
自分の課題を
解決するために
使おう

おたすけカード2：点検のヒント

学校内の防災チェックリスト
★ 教室の危険物チェック

- 非常出入口の2ヶ所以上の確保
- 出入口ドアの閉鎖状況
- ドアのまわりの整理整頓
- 本棚・スチール棚の固定状況
- 本棚・ロッカー上の落下防止状況
- 蛍光灯の固定状況
- 壁の傾斜・時計など
- クーラーの設置状況
- テレビの設置状況
- 窓ガラスの耐震性

学校内の防災チェックリスト
★ 音楽室の危険物チェック

- 非常出入口の2ヶ所以上の確保
- 出入口ドアの閉鎖状況
- ドアのまわりの整理整頓
- 本棚・スチール棚の固定状況
- 本棚・ロッカー上の落下防止状況
- 蛍光灯の固定状況
- 壁の傾斜・時計などの固定状況
- クーラーの設置状況
- テレビの設置状況
- 窓ガラスの耐震性
- ピアノの固定状況



※危険箇所とその対策を考えよう！

調べ方や調べるものが
分からない生徒に配布し、
安全点検のヒントを探す
手だてとした。特別教室
等、数種類準備した。

④ 実証授業のまとめと考察 (○は成果、▲は課題)

視点	個に応じた具体的な支援による成果と課題			
	学習の進め方への支援	課題の発見への支援	学習活動への支援	評価活動への支援
はじめ	○学習カードを授業の展開に合わせることで、これから学習する道筋を理解させることができた。	○おたすけカード1を使うことによって、自己の既習経験に基づいた課題を発見することができた。	○学習カード等を参考に個に応じた学習計画を立てて課題解決を図る学習の理解を深めることができた。	○学習カードのチェック項目から個々の学習状況を的確に評価することができた。
なか	○本時の学習のねらいを掲示するなど学習の方向性を明確にすることで、学習に対する見通しをもたせることができた。 ○学習カードに学習の進め方の視点を示すことによって、学習計画に基づいた学び方を理解させることができた。 ▲生徒の既習経験の違いによって学習計画の立て方に差が見られた。	○生徒同士の意見交換を意図的に実施したことで、新たな課題を見付けることができた。 ○おたすけカード2を活用することで新たな課題を発見することができた。 ▲教師の支援や学習カード等を使っても、意欲的に課題を発見しようとしていない生徒には、より個に応じた支援が必要であった。	○教師や司書教諭の助言から学習への改善点が明確になり学習を修正・発展させることができた。 ○知識の習得状況により、個に応じたおたすけカードを使用することで学習の見通しをもたせることができた。 ▲個々の課題追究により、学習の場が広がるため、より細かな指導体制を工夫することが必要であった。	○自己評価により学習状況の理解が深まり、学習に対する課題意識をもたせることができた。 ○相互評価をすることにより、自己のよさや新たな課題に気づき、学習を修正・発展させることができた。 ▲自己の学習を振り返らせ、学習内容を評価させるための十分な時間を生徒に与えることができなかった。
おわり	○学習カードとおたすけカード1を自主的に活用することによって、自己の興味や既習経験に基づいた課題解決学習を深めることができた。 ▲生徒の学習状況によって学習カード等の活用に差が見られた。	○基礎知識から課題を発見する活動の支援をすることで知識を深めさせることができた。 ▲生徒の学習の深まりによって、新たな課題発見につながる生徒への支援を工夫する必要があった。	○意見発表会で他の多様な考え方を知ることによって思考力を深めることができた。また、自己の問題として考えさせることができた。 ▲主体的な学習を進めるためにも、活動時間を十分に確保する工夫が必要だった。	○仲間や教師の個に応じた評価活動の支援によって、学習を振り返り、修正・発展させる内容を明らかにすることができた。

考察

- 学習カード等の充実や学習形態の工夫により、一人一人の生徒に学習の見通しをもたせ、自己の能力に適した課題解決学習ができた。
- 学習カード等の活用及び仲間や教師とのかかわりから学習を振り返り、修正したり発展させたりする生徒の自己評価活動を高めることができた。
- 保健学習の基礎知識を基に、課題を追究する学習活動を個に応じて支援することで、知識を深く理解させるとともに仲間の発表等から、科学的に考えさせることができた。また、その取り組みにより、適切な行動を選択できる実践力の素地を学ばせることができた。
- ▲生徒の自己評価の仕方にはばらつきがあることから、さらに自己評価活動を高めていくための個に応じた細かな支援が必要であった。
- ▲あらゆる場面で学習を振り返り、修正・発展が習慣化されるよう、生徒相互のかかわりや教師の指導体制(他教科や司書教諭、栄養士等との連携)をさらに充実させていく必要があった。

(2) 体育分野 単元計画例 (第2学年対象 男女共習 10時間扱い)

○単元名 「器械運動」(マット運動・跳び箱運動・平均台より1種目選択)

○単元のねらい

- ・自己の課題解決を目指し、仲間と助け合い、楽しみながら安全に運動に取り組むことができる。
- ・資料や仲間の助言から課題を見付け、自己の能力に適した技を習得するための練習の仕方を工夫することができる。
- ・自己の能力に適した技を選び、その技をよりよくできるようにしたり、もう少しでできそうな技をできるようにしたりすることができる。
- ・自己の能力に応じた課題を解決するための学習計画を立てることができる。

○「おおむね満足できる状況」の評価規準 (観は行動観察・学は学習カード・ペはペーパーテスト)

関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
①器械運動に興味をもち、楽しさや喜びを味わおうとしている。 (観) ②自分が練習をしたあとに、マットの位置など、安全を確かめている。 (観) ③互いに協力し、補助し合いながら練習している。 (観・学) ④練習や発表では、お互いの技や演技のできばえの良さを認め合おうとしている。 (観・学)	①自分の技能に応じた技を選択したり、組み合わせたりして技を円滑に行うための課題を設定している。 (観・学) ②課題解決に必要な練習の仕方を選んだり、見付けたりしている。 (観・学) ③課題の達成状況をとらえ、練習や発表の仕方を見直したり、新しい課題を選んだりしている。 (観・学・ペ)	①習得した技を組み合わせさせて連続した演技ができる。…マット運動、平均台(観) ・習得した技の中から、系統の異なった二つの技ができる。 …跳び箱(観) ②美しい姿勢と力強さ(安定性、雄大性)をある程度、表現することができる。 (観) ③技のできばえを改善したり、新たに技を加えたりして、演技内容に変化を加えることができる。 (観)	①器械運動の技の系・技群・グループの構造、技の系統性や発展性を理解した練習の仕方を知っている。 (学・ペ) ②器械運動の楽しみ方や学習の進め方を知っている。 (学・ペ) ③技の特徴や運動種目ごとの特性にあった演技構成の仕方、発表の仕方について、説明することができる。 (学・ペ)

① 単元の指導計画例 (器械運動：マット運動・跳び箱運動・平均台運動より1種目選択)

時	学習活動 学習内容	課題解決学習への 指導・支援	個に応じた具体的な支援 (学習につまずいている等)	評価
1 ・ 2	オリエンテーション ・学習の進め方の確認 ・学習ノート・資料の説明	・学習カードや学習資料を使って、学習のねらいを説明し、学習の見通しをもたせる。	・器械運動が苦手な生徒には、自分のできそうな技を自分のペースで進めればよいことを丁寧に説明し、学習意欲を高める。	・学習のねらいを理解し、学習に見通しをもって取り組もうとしているか。
学習 I	既習技能の確認 ・種目の選択 ・グルーピング	・既習技能に取り組みせ、自己の興味・関心に応じて種目を選択させる。 ・同じ課題の仲間グループで互いに助言したり補助し合ったりするよう助言する。	・なかなか種目選択ができない生徒には、教員が補助につき、できそうな技に挑戦させ、自信をもたせる。	・自分の興味・関心に応じて種目選択を行い、学習意欲を高めることができるか。

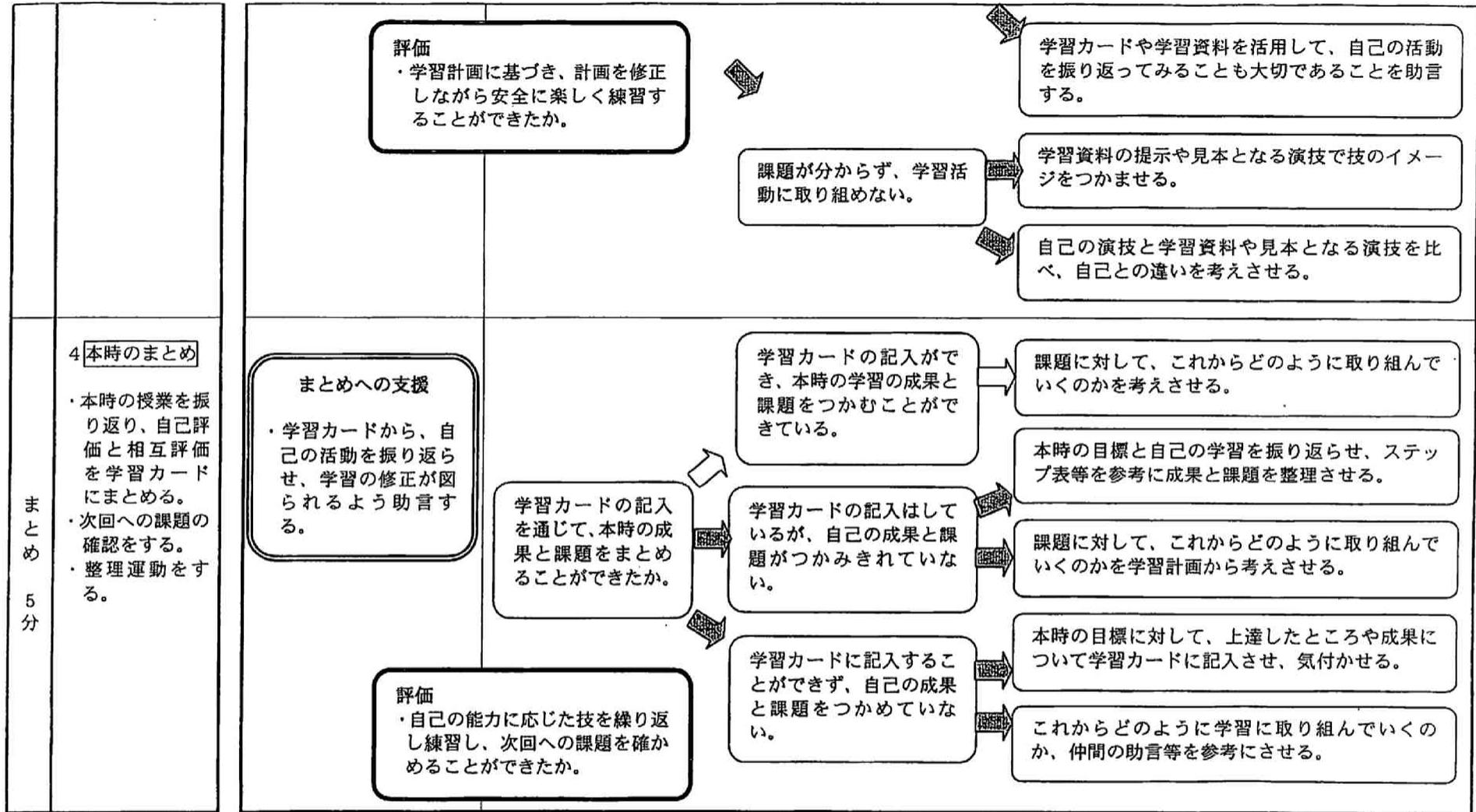
3 ・ 4 ・ ⑤ ・ 6	学習計画Ⅰ ・個人目標の設定及び全体学習計画の作成	・既習技能の取り組みやステップ表を参考に個人目標を設定させ、全体学習計画を作成させる。	・目標の設定ができない生徒には、ステップ表を活用させ、できそうな技を確認させる。また、学習計画の立て方を個別に支援する。	・自己の能力に適した目標や課題を設定し、課題解決のための学習計画を立て、計画的に進めることができたか。
	①課題の設定	・前時の成果と反省を踏まえて各自の課題を明確にさせる。	・課題設定ができない生徒には、仲間のアドバイスを参考に課題を考えるよう助言する。	
	②学習計画の作成	・自己の目標や課題を明確にした上で、学習カードを使用し、個に応じた学習計画を立てさせる。	・学習計画が立てられない生徒には、前時を振り返り課題を確認させる。また、課題解決に向けた具体的な練習方法を例示する。	
	③課題に応じた学習活動	・同じ課題をもつ仲間同士で練習方法や場を工夫させる。 ・ステップ表の支援のポイントを参考にし、生徒相互で技の完成度をアドバイスし合うよう促す。(仲間のアドバイスは学習カードに記入させる。)	・学習の成果が高まらない生徒には、ステップ表を活用し技のポイントをつかませるとともに、学習資料を提示し、具体的な練習方法を助言する。	・適切な練習を選択したり、場の工夫ができたか。 ・仲間とともに安全に留意し、互いにアドバイスや補助を合い練習に取り組めたか。
④自己評価・相互評価	・学習活動を振り返り、学習カードにまとめる。 ・教師や仲間のアドバイスを参考にし、本時の反省と次時の課題を確認させる。	・自己の成果と課題をつかめない生徒には、ステップ表を活用し、「できたこと」、「できそうだったこと」を具体的に助言し確認させる。	・本時の成果と次時への課題を確かめることができたか。	
7 ・ 8 ・ 9	学習計画Ⅱ ・学習の修正から新たな課題への対応 ①新たな課題の設定 ②学習計画の作成 ③課題に応じた学習活動 ④自己評価・相互評価	・今までの学習を振り返り、新たな目標・課題とそれに伴う学習計画を考え、学習の修正・発展を図るよう助言する。	・学習計画Ⅰで立てた個人目標が、どこまで達成できているかステップ表を参考に確認させ、今後の学習計画を具体的に考えさせる。	・新たな課題から学習が修正できたか。 ・器械運動の楽しみ方や学習の進め方等が理解できたか。
10 ま と め	学習のまとめ ・発表会 ・学習成果の確認 ・記録のまとめ	・発表会では、練習してきた技を組み合わせるなど工夫させる。	・発表会は、練習してきた成果を発表する場であることを理解させ、自信をもって演技するよう励ます。	・技の特徴等にあった演技構成や発表の仕方を考えることができたか。

②学習指導案例（10時間扱いの5時間）

【本時のねらい】

- ・安全に留意しながら仲間と協力し、楽しく練習することができる。
- ・学習計画に基づいて工夫しながら練習することができる。
- ・選んだ技の技能を高めたり、技をよりよくできるように繰り返し練習したりすることができる。
- ・自己の課題解決のための練習の仕方を理解することができる。

時間	学習活動 学習内容	教師の支援・評価	
		課題解決学習への支援	個に応じた具体的な支援（☐学習がうまくできている者・▣つまづいている者）
はじめ 10分	1 整列・挨拶	学習計画への支援 ・ステップ表等を参考にさせ目標や課題を明確にさせる。 ・学習計画の立て方や配慮点について示す。	自己の課題を把握し、適切な学習計画を立てることができる。 <ul style="list-style-type: none"> → ステップ表から次の段階への見通しをもたせる。 → うまく活動できない友達に助言させる。
	2 学習内容の確認		自己の課題をつかみ、適切な学習計画が立てられるか。 <ul style="list-style-type: none"> → 学習カードの記入はしているが、自己の課題をつかみきれず、学習計画も立てられない。 → 学習カードの記入ができず、課題もつかめず、学習計画も立てられない。
		評価 ・自己の能力に応じた学習計画を立てることができたか。	
なか 35分	3 課題解決学習	学習活動への支援 ・課題解決のための練習方法を紹介する。 ・生徒相互に練習内容や技の完成度を助言し合うように促す。 ・ステップ表に色や印をつけて目標を分かりやすく促す。	自己の課題解決に向けて、進んで取り組むことができている。 <ul style="list-style-type: none"> → 技の出来映えをさらに高めさせたり、新たな技に挑戦したり、技のレベルアップを助言する。 → 友達の補助をしたり、お互いに演技についての助言をし合ったりするよう助言する。
		自己の課題に応じた学習活動ができているか。 <ul style="list-style-type: none"> → 課題解決に向けての学習活動を進めているが、学習の成果が高まっていない。 	ステップ表・チェック図を活用し技のポイントをつかませ、練習の方法や場を工夫するよう助言する。



- (本時の評価)
- ・仲間と協力し合いながら、安全に楽しく練習することができたか。
 - ・学習計画に基づき、学習を修正しながら工夫して練習することができたか。
 - ・自己の能力に応じた技を繰り返し練習し、技能を高めることができたか。
 - ・課題解決における練習の仕方を理解することができたか。

③学習資料

ステップ表

技能の実現状況をできるだけ具体的に示した段階表を作成した。各種目の技の完成度を3段階（ベーシック、ターゲット、チャレンジ）にすることで、現在の自分の状況把握、課題設定のための資料とした。また、課題達成のための支援（ポイント1、ポイント2）を示した。課題達成時にはそのステップの枠を囲んだり、塗りつぶしたり等、学習の成果を確認し、自己評価、相互評価に利用した。『ターゲット』を「おおむね満足できる」段階と位置付ける。

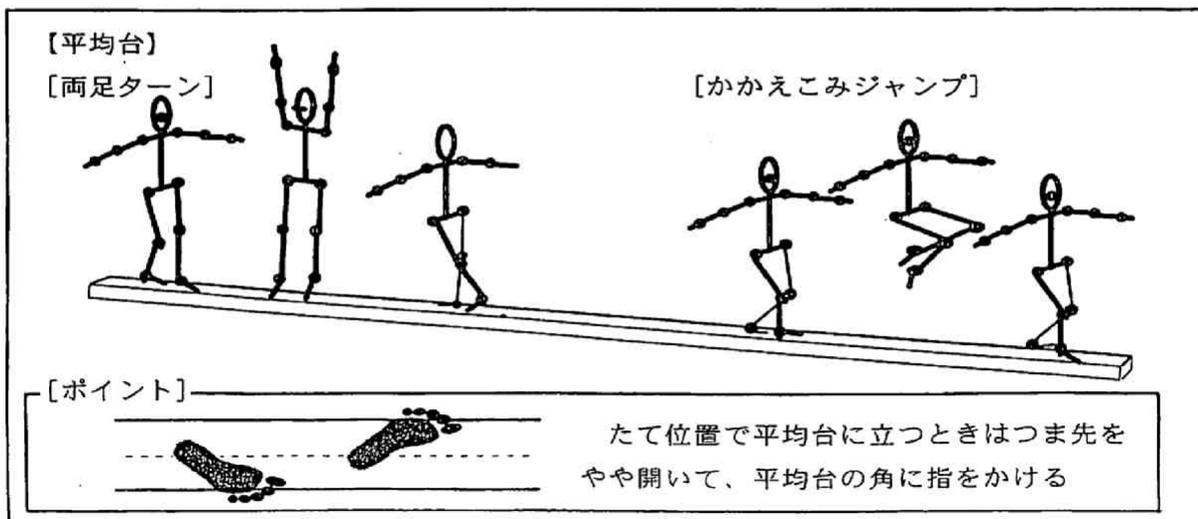
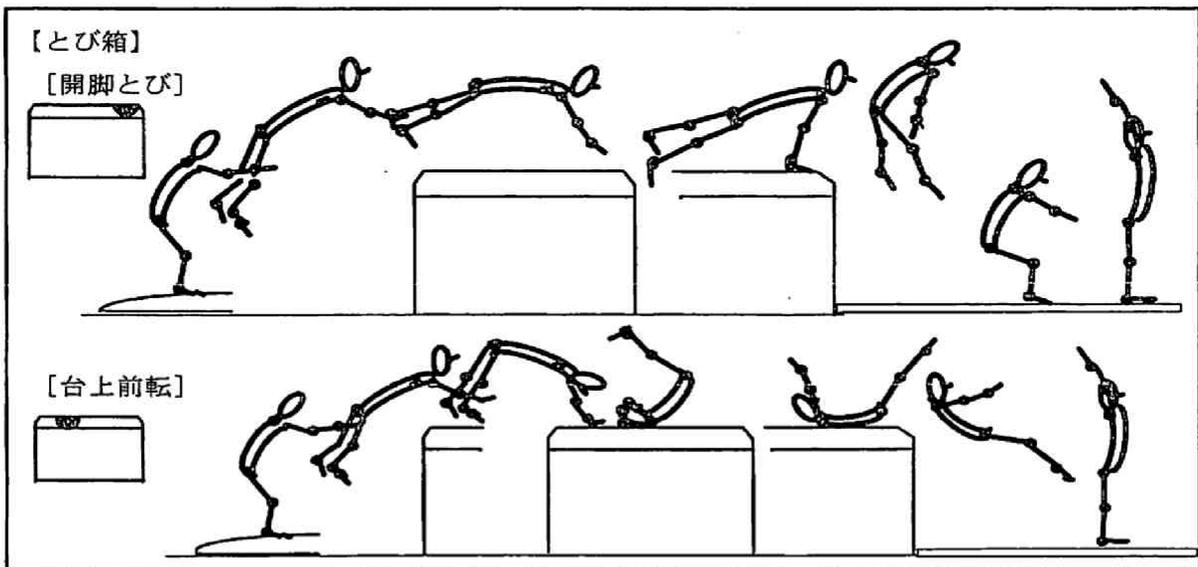
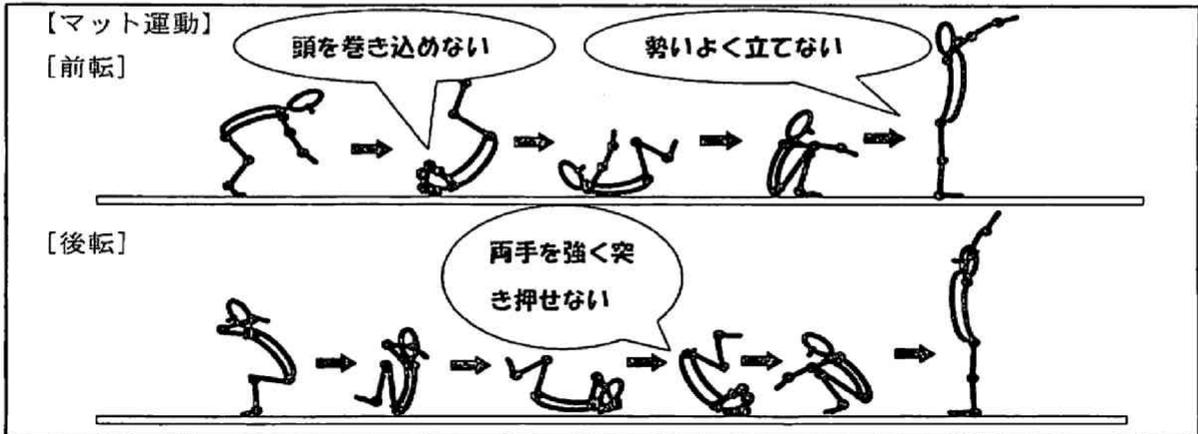
マット運動	ベーシック	ポイント1	ターゲット	ポイント2	チャレンジ
前転	頭を巻き込みず、傾いてしまいが両手でマットをしっかり突き押しして前回りをして起き上がれる。	マットを強く叩いて勢いを付けてみよう。まっすぐあごを引き、背中を丸めよう。	膝は曲がっているが前回りをして勢いよく立ち上がることができる。	回転前半は膝、つま先まで伸ばし、回転後半は背中を小さく丸めてみよう。	回転前半に膝、つま先が伸びており、回転後半では両膝を抱えて勢いよく立ち上がることができる。
後転	体が左右に傾いてしまい、まっすぐ回れないが、後ろ回りができる。	あごを引いてへそを見よう。手は耳の横で構え、両手のひらでマットを押そう。	両手の突き押しがしっかりとっていて直線上で後転でき、立つことができる。	回転時に膝、つま先を閉じてみよう。	足を閉じて勢いよく立つことができる。
開脚前転	前転をして足を開いた状態で座れる。	あごを引き、両手でマットを強く押そう。回転後は重心を前にしよう。	前転をして膝が曲がってしまいが開脚状態で立ち上がることができる。	足がマットにつく瞬間に力強く手でマットを押し、両足の内側をマットに被せるようにしよう。	膝、つま先が伸びた状態で回転し勢いよく立ち上がれる。

とび箱	ベーシック	ポイント1	ターゲット	ポイント2	チャレンジ
開脚とび	両手をとび箱につき、腰、膝は少し曲がるが跳びこせる。	両足で強く踏み切りよう。腰を高く上げ、両手を遠くに、しっかりとつこう。	踏み切り後に伸身の姿勢で膝を伸ばして、大きく遠くへ着地できる。	とび箱に着手後、肩を着手点より前に出し、突き放そう。	踏み切り後に一度身体が床と平行になってから手をつき、跳びこせる。（水平開脚とび）
かかえこみとび	着地は不安定であるが両手をとび箱について、膝を抱え込んで跳び越すことができる。	強く踏み切りよう。着手後、強く突き放し、すぐに膝を抱えよう。	手の突き放しが充分で膝を抱えて跳び越すことができ、安定して着地できる。	突き放しと同時に、前方を見よう。突き放した後、上体をそらしてみよう。	踏み切り後の腰の高さが充分で、強く突き放すことができ、安定して遠くに着地できる。
台上前転	両足で踏み切り、両手でしっかり支持し、とび箱の上で前転ができる。	強く踏み切りよう。腰を高く上げ、両手でしっかりと身体を支え、あごを引いて後頭部から回転を始めよう。	腰が高く上がり、膝は曲がっているが、まっすぐ前転ができ両膝をそろえて着地ができる。	腰を高く上げよう。起き上がるときに両足を遠くへ振り出そう。	踏み切り後から着地まで、膝を伸ばしたまま屈伸状態で大きく前転し安定した着地ができる。

平均台	ベーシック	ポイント1	ターゲット	ポイント2	チャレンジ
歩行 (前進、後退)	壁や補助者に頼りながら歩くことができる。	床の線の上を歩く練習をしよう。両手を肩の高さに開いてバランスをとろう。	平均台を見ながら、一人で前進または後退ができる。	平均台の側面を足の裏で確認しながら歩こう。	平均台を見ないで、背筋を伸ばして歩くことができる。
ジャンプ	かがんで伸びあがりながら跳びあがり、平均台から足が一瞬離れることができる。	両手を横方向に広げながら、バランスをとり、両足で強く踏み切り、高さを出してみよう。	両手を振りあげることで高く跳びあがり、身体を伸ばしたままジャンプができる。	空中で膝を抱え込んだり、足を開いたり、前後に開いたりしてみよう。	空中でポーズを作って、体制を崩すことなく着地することができる。（かかえこみ、前後脚風、左右脚助）
両足ターン (180°)	ゆっくりと両足で、からだの方向を180°変えることができる。	両足でバランスをとり、体の軸を保ってみよう。回転のスピードをあげてみよう。	すばやく両足で方向変換ができる。	両手を横方向に広げながら上方に振りあげ、つま先立ちになり、背筋を伸ばしてみよう。	姿勢を伸ばしすばやく方向変換ができる。

チェック図

課題解決のための資料としてステップ表と連動させて使用した。図はステップ表の2段階目・ターゲットを表している。今の自分の状態を書き込み、図との相違点に気付くようにさせた。(マット運動の図に生徒の記入例を示す)



学習カード1

・全体学習計画表

個に応じた学習を進めるに当たり、個々の目標を設定するとともに、学習計画を作成し、課題解決学習への意欲を高めさせるものとした。

10時間の授業の中で、オリエンテーション、既習事項を確認後に、4時間目から9時間目までの学習計画を作成し、課題解決に向けた学習を行わせた。

6時間目終了時に、それまでの活動を自己評価して、学習の振り返り、学習の見直しを行い、課題の修正と、学習計画の修正・発展案を作成させた。

(生徒の記入例を右に示す)

【全体学習計画表】

【個人目標】		【修正個人目標】							
マット運動 伸脚前転と倒立前転ができるようになりたい。		伸脚前転と伸脚後転まで絶対にできるようにになりたい							
【個人全体学習計画表】									
1	・オリエンテーション①【学習の進め方、学習ノート・資料の説明】	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 学習計画 </div> <p>3. 学習計画準備、技の復習 4. 今までにできるようになった技の復習 5. 新しい技に挑戦！・開脚前転・開脚後転 6. レベルアップ！伸脚前転・伸脚後転 7. ここまではマスター！倒立前転・発表構成・練習 8. 流れるような演技を目指す！発表練習 9. 発表演技完成！</p> <p>《6時間終了後、成果を基に学習計画を見直してみよう》</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 修正・発展計画 </div> <p>7. 完全マスター！開脚前転・伸脚後転 8. 新技・倒立前転挑戦！流れるような演技を！発表練習 9. 完全マスター！発表演技完成</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>技</td> <td>倒立前転 → 前転 → 後転 → 開脚後転</td> </tr> <tr> <td>構成</td> <td>→ 伸脚後転 → 伸脚前転</td> </tr> <tr> <td>修正</td> <td>倒立前転 → 開脚前転 → 前転 → 伸脚前転 → 開脚後転 → 伸脚後転</td> </tr> </table>		技	倒立前転 → 前転 → 後転 → 開脚後転	構成	→ 伸脚後転 → 伸脚前転	修正	倒立前転 → 開脚前転 → 前転 → 伸脚前転 → 開脚後転 → 伸脚後転
技	倒立前転 → 前転 → 後転 → 開脚後転								
構成	→ 伸脚後転 → 伸脚前転								
修正	倒立前転 → 開脚前転 → 前転 → 伸脚前転 → 開脚後転 → 伸脚後転								
2	・ 様目選択								
3	・ 課題設定								
4	・ 全体学習計画作成								
5	・ 毎時学習計画								
6	・ 課題解決学習								
7	★自己評価 相互評価	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>技</td> <td>倒立前転 → 前転 → 後転 → 開脚後転</td> </tr> <tr> <td>構成</td> <td>→ 伸脚後転 → 伸脚前転</td> </tr> <tr> <td>修正</td> <td>倒立前転 → 開脚前転 → 前転 → 伸脚前転 → 開脚後転 → 伸脚後転</td> </tr> </table>		技	倒立前転 → 前転 → 後転 → 開脚後転	構成	→ 伸脚後転 → 伸脚前転	修正	倒立前転 → 開脚前転 → 前転 → 伸脚前転 → 開脚後転 → 伸脚後転
技	倒立前転 → 前転 → 後転 → 開脚後転								
構成	→ 伸脚後転 → 伸脚前転								
修正	倒立前転 → 開脚前転 → 前転 → 伸脚前転 → 開脚後転 → 伸脚後転								
8	☆学習振り返り ☆学習見直し								
9	☆課題再設定 ☆学習修正計画 ・ 毎時学習計画 ・ 課題解決学習 ・ 発表練習 技・構成 決定練習 ★自己評価 相互評価								
10	学習のまとめ	・ 発表会 ・ 学習成果の確認 ・ 記録のまとめ ・ 自己評価							

学習カード2

・授業学習計画

全体学習計画を基に、授業ごとに課題と学習計画を作成した。

前時までの学習状況に応じたスモールステップの計画をたて学習を行った。

資料を参考に自己評価、相互評価をすることで、現状を把握し、学習の振り返りと修正につなげた。

(生徒の記入例を右に示す)

【授業の反省・感想と自己評価】

月	学習計画				アドバイスされたこと
日	[本時の課題] [マット/5時間目] 勢いのある回転とマットを力強く押すことを意識して、後転を行う。				[友達] 「やっぱりまだ勢いが足りない！」と言われたので、思いっきり回ったら簡単に回れた。
	10分	20分	30分	40分	45分
観・777	個人学習タイム				観・111
準備	①	②	③	④	・・・
ラ	前後	開脚	開脚	伸脚	反次片
ス	前転	開脚	開脚	伸脚	省回付
ト	後転	前後	後転	後転	課題
ニ	後転	後転	後転	後転	課題
シ	後転	後転	後転	後転	課題
ン	後転	後転	後転	後転	課題
ッ	後転	後転	後転	後転	課題
ケ	2	できるまでやる!			
チ	2	できるまでやる!			
ク	2	できるまでやる!			
回	2	できるまでやる!			
本時の反省	後転と伸脚後転ができました！後転が意外に簡単にできたのでビックリしました。どんどんステップ表を塗りつぶしたいです。				
次時の課題	もっと、ひざとつま先をまっすぐのばして伸脚後転ができるようにする。開脚前転はフィニッシュの時に、つま先のかぶせを意識する。難しい技にも挑戦する！				
伸脚後転は難しい技です。頑張りましたね。はじめの頃は苦手と言っていた後転技、ずいぶん上手になりました。次は倒立系の技かな？					検印

④ 実証授業のまとめと考察 (○は成果、▲は課題)

視点	個に応じた具体的な支援による成果と課題			
	学習の進め方への支援	課題の発見への支援	学習活動への支援	評価活動への支援
はじめ	○学習カード等を活用し、学ぶ道筋を示すことで、学習に見通しをもち、学習の仕方を工夫しようとする姿勢が見られた。	○ステップ表で具体的な技能の実現状況を明確にすることで、自己の課題の発見に役立てることができた。	○技能の到達点を具体的に示すことで、進んで学習に取り組むようになった。 ○予想される用具等を数多く準備することで、学習を工夫しようとするようになった。	○教師や仲間等の助言から、ステップ表・チェック図に自己の状況を書き込ませることを通して、自己評価しながら学習する態度を育てることができた。
なか	○学習指導計画に基づく個に応じた支援をすることで、課題解決における学習の進め方を身に付けることができた。 ▲学習に進んで取り組むことができない生徒に対して、学習意欲を喚起するような学習カード等の工夫をする必要があった。	○学習カードで、本時の反省や次時の課題を整理させることで、課題に対する問題点や改善点が明確になり、新たな課題を発見させることができた。 ▲自己の課題が把握・発見できない生徒に対して、より踏み込んだ支援が必要だった。	○学習カードにより学習の見通しをもって活動することで、自己の学習計画を修正・発展させることができた。 ○課題グループごとの活動を行わせることで、仲間同士が助け合いながら課題解決することができた。 ▲既習経験等によって、学習計画の立て方や学習の進め方に差が見られた。	○仲間にアドバイスを活動を取り入れることで、自己の活動を振り返らせることができた。 ○全体学習計画表に修正欄を作ることで、学習の見直しができるようになった。 ▲自己評価・相互評価の時間を十分に設定することができなかった。
おわり	○目指す方向性を示した学習カード等を工夫したことで、学習に取り組む姿勢を身に付けることができた。 ▲生徒の学習状況によって、課題解決学習のかかわり方に差が見られた。	○仲間からの助言や学習カードを活用して、学習を振り返ることで、自己の課題を正しく把握することができた。 ▲学習カード等の活用には差があるため、新たな課題の発見につながらない生徒もいた。	○学習カード等への記入やステップ表・チェック図を活用することで、学習計画の修正を図ることができた。 ▲学習資料や学習カードをうまく活用できない生徒は、見通しがないため、計画的な活動を進めることができなかった。	○仲間の助言や学習カード等を使うことを通して、自己の活動を振り返ったり、評価したりする活動が見られるようになった。

考察

- 技能の到達点を具体的に示すなど学習カード等を工夫することにより、生徒は自己の学習活動に見通しをもち、各自の課題や自己の能力に応じた学習活動に取り組むことができた。
- 学習カード等を通して、仲間への助言や学習の振り返りを行うことで、自己評価・相互評価する力を高めることができた。
- 課題解決例を示した学習資料を活用して、学習活動の修正・発展を繰り返す中で、自己の課題に対する解決方法を主体的に考え、実践する力を身に付けることができた。
- ▲課題や学習内容を把握できていない生徒には、教師のより踏み込んだ支援が必要であった。
- ▲自己の課題に対する理解や課題に対する学び方にばらつきが見られるため、今後も自らの課題解決を図ることができる力を身に付けさせる個に応じた支援が必要であった。

Ⅲ 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

課題解決学習における個に応じた支援の工夫について、4つの支援から個に応じた学び方の習得について実証授業を行い、次のような成果があった。

(1) 学習の進め方への支援

- ・ 学習カード等の工夫により、一人一人の生徒に学習の道筋を示すことで、学習の進め方を理解させることができた。

(2) 課題の発見への支援

- ・ 調べる視点や種目ごとの技能の状況を具体的に示した学習資料を活用させることで、自己の能力や興味・関心に応じた課題を発見させることができた。
- ・ 学習カードへ学習計画、本時の反省、次時の課題を記入させることによって、課題を把握させることができた。
- ・ 生徒が互いの学習状況を見合ったり、意見交換したりする学習を意図的に取り入れることで、新たな課題を発見させることができた。

(3) 学習活動への支援

- ・ 技能の到達点を3段階の実現状況として具体的に学習資料に示すことで、技能の習得に見通しをもたせ、学習を深めることができた。
- ・ 仲間とのかかわりを重視することや個に応じた学習資料等の工夫をすることで、課題が明確になり、学習計画を修正・発展させることができた。
- ・ 指導体制の工夫や予想される用具を準備するなど学習環境を整えることで、学習を工夫し、課題を解決する力を身に付けさせることができた。

(4) 自己評価活動への支援

- ・ 学習カード等の工夫から、生徒自身が新たな課題に気づき、学習を修正・発展させる内容を明らかにすることができた。
- ・ 個に応じた教師の助言や学習カード等の工夫から、自己の活動を振り返り、自己評価しながら活動できるようになった。

2 今後の課題

- (1) 新たな課題や学習内容を把握できていない生徒に対して、学習意欲をより喚起する学習資料等の工夫や教師の踏み込んだ支援が必要であった。
- (2) 学習の進め方に個人差があることから、課題解決する時間や学習を振り返る時間など、生徒が主体的に活動する時間をより生み出すための工夫が必要であった。
- (3) 生徒が自らの学習を振り返り、学習を修正しながら課題を解決していく力を高めるために、指導体制等をさらに工夫するなど、個に応じた支援が必要であった。

平成17年度 教育研究員名簿（保健体育）

	区市町村名地区	学校名	氏名
保健分科会	文京区	第七中学校	土井 佳奈
	江東区	大島西中学校	金澤 誠
	渋谷区	原宿外苑中学校	☆小林 正夫
	中野区	第三中学校	河野 美德
	豊島区	長崎中学校	金子 哲朗
	昭島市	清泉中学校	○山本 茂浩
体育分科会	世田谷区	若林中学校	河田 真一
	北区	王子桜中学校	名取 秀康
	葛飾区	水元中学校	☆木曾 和也
	東村山市	東村山第一中学校	後藤ひより
	多摩市	豊ヶ丘中学校	◎小嶋 靖彦
	あきる野市	御堂中学校	天野 敬子

◎世話人 ○副世話人 ☆班長

担当 東京都教職員研修センター統括指導主事 河合 雅彦

平成17年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録
平成17年度 第12号

平成18年1月16日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒一丁目1番14号
電話番号 03-5434-1974

印刷会社名 株式会社 今関印刷